

*本件に関しては、サスクパワー社が、カナダ時間2月16日(日本時間17日)に発表しています。

2010年2月17日

Saskatchewan Power Corporation

株式会社日立製作所

カナダの大手電力会社サスクパワー社と日立が 低炭素エネルギー技術の協力協定に合意

CCS 実証プロジェクト向け 150MW 級蒸気タービンおよび発電機を受注

カナダの電力会社であるサスカチュワン州電力公社(Saskatchewan Power Corporation、本社:カナダ サスカチュワン州レジャイナ市、社長兼 CEO:Garner Mitchell/以下、サスクパワー社)と株式会社日立製作所(執行役会長兼執行役社長:川村隆/以下、日立)は、このたび、CO₂回収・貯留(CCS:Carbon Capture & Storage)技術をはじめとする低炭素エネルギー技術分野での技術開発および運用における協力協定に合意しました。さらに、日立の子会社である日立カナダ社(本社:カナダ オンタリオ州ミンサガ市、社長兼 CEO:Howerd Shearer)では、サスクパワー社が計画を進める世界有数の大型 CO₂ 回収実証計画であるバウンダリーダム(Boundary Dam) CCS 実証プロジェクト向けに、150MW 級の蒸気タービンおよび発電機を受注しました。

カナダでは、電力需要が増加傾向にある一方で、電力会社には、世界的な課題として CO₂ 排出抑制をはじめとする地球温暖化対策が求められています。日立は、過去 40 年以上にわたって、石炭火力、天然ガス火力、風力といったさまざまな発電分野で、サスクパワー社に発電設備を提供してきました。1988 年には、サスカチュワン州に発電機器の製造拠点として Hitachi Canadian Industries Ltd(以下、日立カナダ・インダストリーズ社)を設立し、サスカチュワン州およびサスクパワー社と緊密な関係を築いてきました。

このたび、サスクパワー社と日立では、これまでの両社の協力関係、長年培った技術力・ノウハウをもとに、CCS や排ガス処理設備(AQCS:Air Quality Control System)、高効率ボイラー・タービン・発電機等、幅広い分野での低炭素エネルギー技術の開発および運用における協力協定を締結しました。サスクパワー社は、本合意に基づき、カナダ政府およびサスカチュワン州からの支援が期待される CCS 実証計画「Saskatchewan Reference Facility for CCS」にて進める、商用運転の実用化や低コスト化の技術革新の実現に向けて、取り組んでいきます。

さらに、日立は、日立カナダ社を通じて、サスクパワー社が計画を進めるバウンダリーダム CCS 実証プロジェクト向けに、150MW 級の蒸気タービンおよび発電機を受注しました。バウンダリーダム CCS 実証プロジェクトは、サスカチュワン州エステバン近郊のバウンダリーダム火力発電所の老朽化した 3 号機を、信頼度が高く長期運用が可能で、環境負荷の低い、基幹(ベースロード)の電力発電設備に再生するプロジェクトで、州内の石油増進回収(EOR:Enhanced Oil Recovery)と温室効果ガスの削減をめざしています。本プロジェクトは、世界で最初の大型 CO₂ 回収実証計画の一つで、今後、技術・経済・環境面から CCS 技術を検証・評価していきます。本プロジェクトは、サスカチュワン州への投資の促進、CCS 技術の適用による石油増進回収の進展、石炭火力発電設備の寿命が 30 年間延長されることによる雇用創出といった、地域経済への効果も期待されています。本タービンの一部も、サスカチュワン州にある日立インダストリーズ社にて製作します。

サスクパワー社と日立は、今回の協力協定をもとに、低炭素エネルギー技術の開発を進め、低炭素社会の構築と、サスカチュワン州経済の発展に貢献していきます。

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
